

難治性の潰瘍や壊死の原因

閉塞性動脈硬化症、バージャー病

足や手を救うための救肢センター



医療法人 錦秀会 阪和記念病院

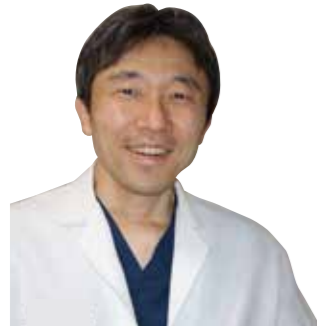
閉塞性動脈硬化症、バージャー病から 足や手を守ります。

足や手の潰瘍壊死といった傷の原因の多くは閉塞性動脈硬化症による血流不足です。また難治性疾患であるバージャー病やバージャー病に似た他の病気が原因のこともあります。そして潰瘍壊死に細菌感染、神経障害、骨の変形、外部からの圧迫が加わると一層治りにくくなります。「潰瘍壊死がなかなか治らない」「できるだけ切らずに治したい」という多くの患者さんの声に応えるために、当センターでは時代に即した適切な診断と治療を提供したいと考えています。いつでもご相談ください。

診察のお問い合わせやご予約先

医療法人 錦秀会 **06-6696-5591**
 阪和記念病院 地域連携室 受付時間：月曜日～金曜日 8:30～19:30

※かかりつけの医療機関からの紹介状があればお知らせください。
 紹介状がなくても受診できますのでご相談ください。



阪和記念病院
 心血管センター センター長
 かわらだ おさみ
 河原田 修身

プロフィール

- 1997年 広島大学医学部医学科卒業
- 2006年 岸和田徳洲会病院 循環器内科医長
- 2009年 スタンフォード大学 医学部 心血管内科 Postdoctoral fellow
- 2012年 国立循環器病研究センター 心血管内科医長
- 2015年 国立循環器病研究センター 心血管内科主任医長
- 兵庫医科大学 非常勤講師
- 2018年 国立循環器病研究センター 心血管内科客員部長
- 2019年 阪和記念病院 心血管センター センター長

当センターの 特色

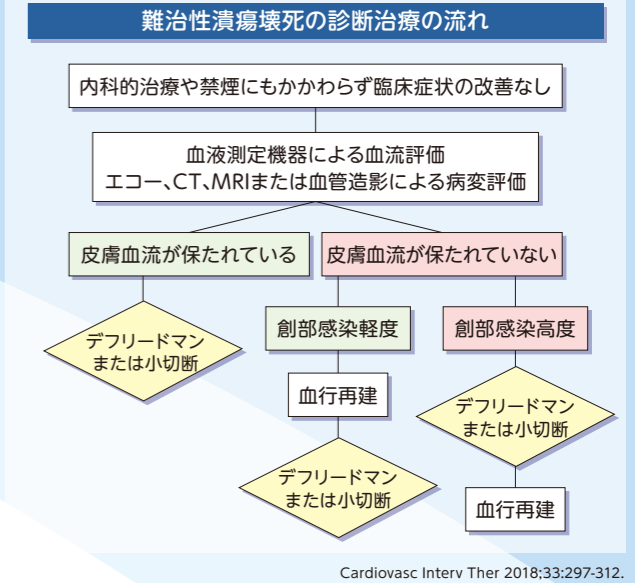
バージャー病の適切な診断と治療、 新たな治療法であるカテーテル治療

難病の一つであるバージャー病。バージャー病に似た疾患もあり、バージャー病の診断が十分にされていないことがあります。またバージャー病であっても、血流障害、細菌感染、静脈うっ滞など、各患者さんによって病状が異なります。未だ治療法が確立しておらず、大切断を余儀なくされている患者さんも多くいます。2012年に我が国で最初のバージャー病に対するカテーテル治療による血流改善と大切断回避を報告しました。以来、新たな治療技術や知見を積み重ねカテーテル治療の確立とその普及に尽力しており、定期的に研究会も開催しています。禁煙や内科的治療を行っても改善しない場合にはカテーテル治療を考慮します。また創部の細菌感染に対する治療や静脈うっ滞に対する治療を行うことで傷が治る場合もあります。

当センターの 特色

1 患者さんの病状に応じた オーダーメイドの診療を实践

「カテーテル治療さえ行えば傷が治る」と考えている方が多くいらっしゃいます。しかし実際、患者さんが抱えている問題は複雑です。まず血流不足の原因が閉塞性動脈硬化症なのか、バージャー病なのか、あるいはバージャー病に似た他の病気なのかを診断する必要があります。そして血流不足以外に細菌感染、神経障害、骨の変形、外部からの圧迫がどの程度関与しているかも評価する必要があります。当センターでは、これまでの豊富な臨床経験をもとに問診や診察を行い、患者さんに負担の少ないエコー、CT、MRなどの画像検査と血流測定を迅速に行う体制を整えています。また心臓血管センターに併設しているので心臓病がある方、透析が必要な方にも対応することができます。そして、国内外の専門家と一緒に作成した診断治療の流れをもとに、患者さんにとって「何が問題でどんな治療が必要か」を考えたオーダーメイドの診療を实践します。



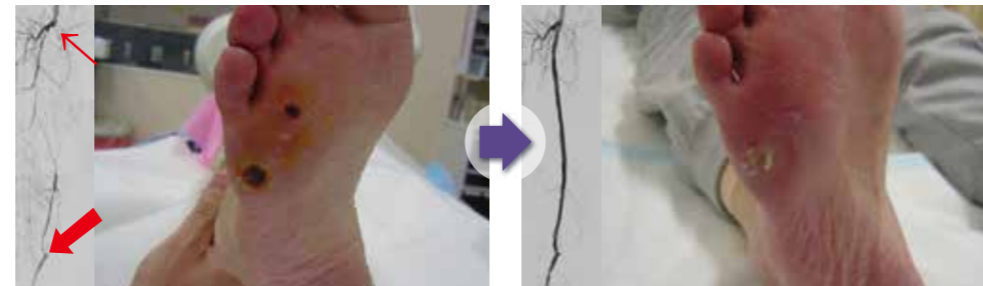
Cardiovasc Interv Ther 2018;33:297-312.

当センターの 特色

2 腹部から手足まで閉塞性動脈硬化症への 高度なカテーテル治療

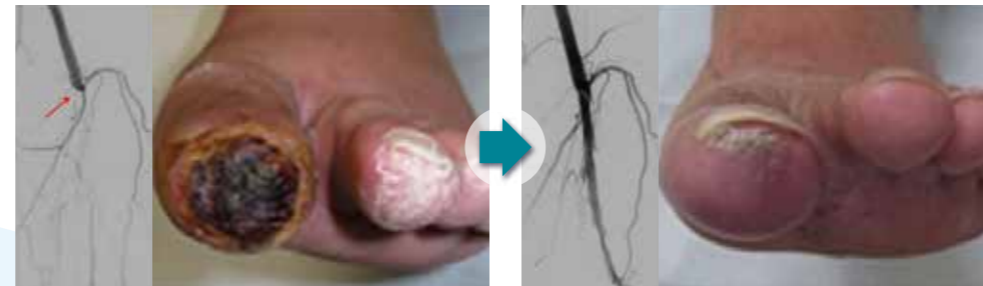
カテーテル治療の黎明期である約20年以上前から閉塞性動脈硬化症のカテーテル治療に取り組んでいます。豊富な臨床経験をもとに技術の工夫を重ね、これまで治療困難とされてきた長く閉塞した血管やバイパス手術後の閉塞したバイパスに対するカテーテル治療の方法も報告してきました。今日では腹部の動脈から足先や手先の動脈までカテーテル治療を行えるようになってきました。どんなに重症の方であっても安易な妥協はせず、安全で質の高いカテーテル治療を心がけます。また明らかにカテーテル治療が好ましくない場合やカテーテル治療後の経過によっては、運動療法や外科的治療をお勧めすることもあります。

治療例② 60歳代、太ももの動脈閉塞により足に難治性壊死のある方



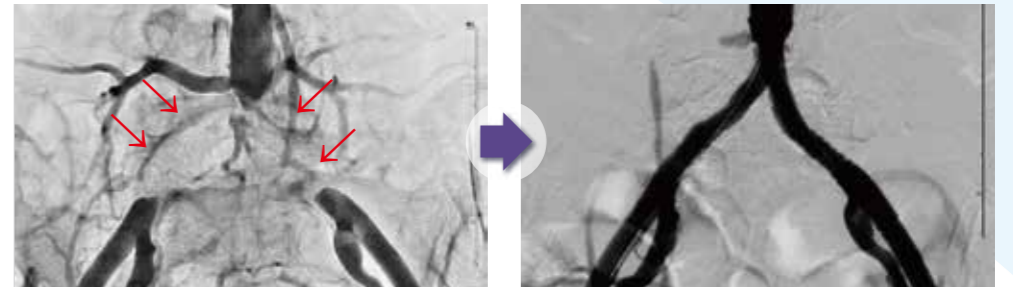
右大腿動脈の閉塞(細い矢印)がありバイパス術を受けられましたが、バイパスが閉塞(太い矢印)し、右足の壊死が治癒しない状態。カテーテル治療後は痛みが消失し、創部は完治しました。

治療例④ 40歳代、太ももから膝の動脈閉塞により足趾に難治性壊死のある方



左大腿膝窩動脈の閉塞があり左母趾の壊死が治癒しない状態。カテーテル治療後は痛みが消失し、創部は完治しました。

治療例① 80歳代、おなかから骨盤内の動脈閉塞により足に痛みのある方



腹部大動脈から両側腸骨動脈にかけての閉塞(矢印)のために痛みで歩行できませんでした。カテーテル治療後は痛みが消失し、日常生活に復帰しました。

治療例③ 70歳代、膝下の動脈閉塞により足趾に難治性壊死のある方



右膝下動脈の閉塞(矢印)があり、右2足趾の壊死が治癒しない状態。カテーテル治療後は痛みが消失し、創部は完治しました。

治療例⑤ 30歳代、手の動脈閉塞により手指に難治性潰瘍壊死のある方



左手首の動脈の閉塞(矢印)があり左手指の潰瘍壊死が治癒しない状態。カテーテル治療後は痛みが消失し、創部は完治しました。